



ARSC NEWS

The Newsletter of the Applied Regional Science Conference

No.94

June 2017

応用地域学会ニュースレター

CONTENTS

1. 新会長就任あいさつ
2. 副会長選挙の結果
3. 運営幹事等役員の選任
4. 第31回研究発表大会のご案内
5. 第7回アジア地域科学セミナーのご案内
6. 2017年度坂下賞候補者の推薦について
7. 「応用地域学研究」への投稿論文の募集
8. 2016年度学会決算(概要)について
9. 2017年度第1回運営委員会報告(概要)
10. 事務局だより

1. 新会長就任あいさつ

ARSC第16代会長 安藤 朝夫

文世一前会長の後を引き継ぎ、2017年度からの2年間、応用地域学会会長を仰せつかることになりました。当時、本郷にあった学士会館分館で「応用地域科学研究会」の設立総会が開かれたのは、1987年暮れのことだったので、今年で丁度30年が経過したことになり、学会も壮年期に入ったこととなります。発足当初は、国の枠を超えた学術組織を目指したため、国連・世銀のエコノミストを含む相当数の海外会員を擁していました。学会の機関誌であるRURDSが扱うテーマが、現会員の中心的研究領域から少しずれているように見えるのも、創設の経緯を反映したものと言えます。私が事務局を担当した1996年当時でも、海外向けの送付は16通ほどに減少していましたが、今では数通を残すのみとなっています。

前会長の2年前の挨拶にも学会の財政事情への言及がありますが、やはり最も基本的な対策は会員数の増加であり、そのためには会員にとって、十分魅力的な学会活動の維持・発展が重要であることは論を俟ちません。その際、海外会員の比率を高める方向で努力をすべきかについては、賛否両論があると思います。たとえば、文科省が国際共著率を大学の評価尺度として重用する以上、国外の研究者と議論できる場の提供が必要だ、という考え方もあるでしょうし、他方ではRSAIを初めとして国際学会は多数あるから、ARSC自体が国際化する必要はない、という考え方もあるでしょう。かつてはARSCの年次大会に英語セッションが設けられていた時期もありますが、これには日本人同士の意見交換の効率を低下させる可能性がある一方で、日本語を理解しない会員の参加を促す効果が期待できます。

ARSCにおける国際化のための努力の一環として、2006年の華東師範大学以来、（東日本大震災による中止を除いて）毎年国際セミナーを共催しています。2010年からは「アジア地域科学セミナー」(ASRS)という名称で、中国・台湾・韓国の地域学会との持回り開催の形式になっており、今年は9月に国立台湾大学(台北市)で開催されます。ARSCからは、約30名の会員が参加する予定ですが、海外会員獲得のためには、このような地道な国際交流への参加も有効でしょうし、会員各位が国際共同研究をされている相手や、指導されている留学生に帰国後も継続的な参加を呼び掛けるなどの対応が考えられます。

「応用地域学研究」は、RURDSの掲載論文と、会員の研究分野のギャップを埋める意図で1996年に創刊され、以前は年2回発刊の時期もありましたが、論文数は漸減傾向にあります。この原因としては、経済系では英語論文が重視されること、土木計画系ではより採択率の高い雑誌が存在すること、かつては多数居られた地理学系の会員が減少したこと等が考えられます。従って「応用地域学研究」の発行形態についても、見直しが必要な時期かも知れません。

学会はクラブ財であり、活発な学会活動を通じて会員の満足度を高めることを、第一義的な目的としています。しかし学会の構成員自体も時と共に変化しているため、かつて最適とされた活動内容が、30年を経て時代に合わなくなってきた面も否定できません。賛助会員も含めて、多数の新会員を獲得できるような、魅力的な学会活動の具現化に向けて、微力ながら努力したいと思いますので、会員諸賢のご指導・ご協力を、会長就任に当たりお願いするものです。

2. 副会長選挙の結果

ARSC選挙管理委員 大西正光, 伊藤 亮

応用地域学会副会長選挙は、平成29年3月6日締め切りで行われました。結果は以下の通り、総投票数118票の内、47票を獲得された大澤義明先生（筑波大学）が当選されました。平成29年4月1日～平成31年3月31日までの2年間、副会長にご就任いただきます。

| | |
|-------------|--------------|
| 投票総数 | 118票（無効票 1票） |
| 大澤 義明（筑波大学） | 47票 |

3. 運営幹事等役員の選任

ARSC事務局

新しい会長のもと、運営委員会が6月10日に開催され、以下のように2017年度の運営幹事等の役員、委員会委員等が選任、又は任命されました。（太字・下線が今回の新任、敬称略・順不同）

2017年度ARSC役員等

○運営幹事（規程無）

- ・実質的に事務局業務の幹事業務を担う。

<2016・2017>

総務（会員の入退会） 浅田 義久（日本大学）
会計（決算，予算） 河野 達仁（東北大学）
渉外（ニュースレター） 高塚 創（香川大学）

○監査委員（会則第9条3項）

・運営委員会が個人会員の中から委嘱する（2名）。任期の規程無。

<2017・2018>

相浦 洋志（南山大学），小川 光（東京大学）

○選挙管理委員（選挙内規第3条）

・会長が指名する（2名）。任期の規程無。

<2017・2018>

織田澤 利守（神戸大学），森田 忠士（近畿大学）

○大会プログラム委員会（規程無）

・運営委員会で選任・委員長指名（開催大学・委員長の意向により委員の増減あり）

<2017年度（東京大学）>

委員長 曾 道智（東北大学）
委員 伊藤 亮（東北大学），小川 光（東京大学），河野 達仁（東北大学），
直井 道生（慶應義塾大学），藤嶋 翔太（東京理科大学）

○坂下賞選考委員会

<坂下賞選考規程>

[選考委員会] 第5条：運営委員会によって選出された3名の委員と会長及び副会長の5名によって構成される。
委員長は、5名の中から運営委員会によって指名された者が当たる。

[選考委員の任期] 第6条：運営委員会によって選出された3名の委員の任期は3年とし、連続して2期務めることは出来ない。これらの委員は、毎年1人が新任となり、1人が退任する。会長及び副会長については、その在任期間を任期とする。

<2017年度坂下賞選考委員会委員>

委員長 多々納 裕一（京都大学 3年目）
委員 城所 幸弘（政策研究大学院大学 2年目），村田 安寧（日本大学 1年目）
安藤 朝夫（ARSC会長），大澤 義明（ARSC副会長）

○応用地域学会論文賞（Best Paper Award of ARSC）選考委員会

<応用地域学会論文賞選考規程>

[選考委員会] 第5条：運営委員会によって選出された3名の委員と会長及び副会長の5名によって構成される。
委員長は5名の中から運営委員会によって指名された者が当たる。

[選考委員の任期] 第6条：運営委員会によって選出された3名の委員の任期は3年とし、連続して2期務めることは出来ない。これらの委員は、毎年1人が新任となり、1人が退任する。会長及び副会長については、その在任期間を任期とする。

<2017年度選考委員会>

委員長 高橋 孝明（東京大学 3年目）
委員 河端 瑞貴（慶應義塾大学 2年目），河野 達仁（東北大学 1年目）
安藤 朝夫（ARSC会長），大澤 義明（ARSC副会長）

4. 第31回研究発表大会のご案内

第31回研究発表大会実行委員長 田淵 隆俊（東京大学）

2017年度大会は、東京大学の主催で、下記要領で開催いたします。意欲的な論文の発表と活発な討論を期待しております。奮っての参加をお願い致したく、ご案内申し上げます。

(1)大会概要

- ①期 日 2017年11月25日（土）, 26日（日）
(総会・懇親会は11月25日(土))
- ②会 場 東京大学本郷キャンパス経済学研究科（東京都文京区本郷7-3-1）
<<http://www.e.u-tokyo.ac.jp/fservice/address/access.html>>
- ③大会ホームページ：<https://sites.google.com/site/arsc2017tokyo/>
- ④参加費 正会員 3,000円, 非会員 5,000円
学 生 1,000円（会員・非会員とも）
懇親会費：一般 6,000円, 学生 2,000円（予定）

*大会と懇親会の参加申込は、大会ホームページにて受け付けます。

(2)発表申込

- ①発表者の条件 **ARSC会員であること**
※非会員の場合は大会までに入会手続きを行ってください。
- ②発表申込み
下記について、添付の「発表申込用紙」をご使用いただき、お申込みください。
(発表申込用紙は、大会ホームページからもダウンロードできるようにします。)
 - a. 発表者氏名・所属
 - b. 連名者氏名・所属
 - c. 発表者連絡先 住所, 電話, ファックス, E-mailアドレス
 - d. 発表題目（和・英のいずれか）
 - e. 要旨（和文200字, 英文100語程度。いずれかを記載）
 - f. 発表時の使用言語（日本語または英語）
 - g. 希望討論者（候補者2名まで）
※候補者の方に事前に打診される必要はありません。プログラム編成や討論者のご都合によってはご希望に添えないことがあります。あらかじめご了承ください。
 - h. 発表区分（「一般セッション」「Early Bird セッション」「特定セッション」
「シンクタンク・セッション」の区分を記入。次項(3)を参照）

③発表申込方法 申込用紙はE-mailに添付して、下記 第31回研究発表大会プログラム委員会まで、お送り下さい。

*メールの件名は「arsc申込(名前)」として下さい。

*発表申込用紙のファイル名は「application(名前)」として下さい。

(例 application(鈴木一郎)など)

④発表申込先 第31回研究発表大会プログラム委員会

E-mail: arsc2017application@gmail.com

⑤発表申込期限 2017年9月16日(土)必着

(3)セッション構成と企画の募集

・下記セッションを開催いたします。「特定セッション」と「シンクタンク・セッション」については、広く会員各位からの企画提案を募集しています。

・2017年9月16日(土)までに企画提案をお送りください。(送り先は上記申込先と同じです。書式は問いません。)

| | |
|-----------------------------|---|
| <p>一般 セッション</p> | <p>・幅広い論題でのセッションです。下記のキーワード(事例)に限定することなく、ARSCにとって関連のある論題を積極的にご報告ください。 《地域問題》成長と衰退, 地域格差, 産業構造, 雇用・人口, 地方分権, 地方交付税, 国土計画 《都市問題》都市空間, 土地利用, 都市集積, 外部経済, 住宅立地, 都市化, 都市財政 《交通》都市交通, 混雑税, TDM, 航空・港湾, 投資評価, 物流, 通信 《環境》影響評価, 環境税, 水質・大気汚染, 地球環境, 電力, 資源管理, 防災 《国際問題》開発援助, 直接投資, 通貨問題, 貿易・関税</p> |
| <p>Early Bird セッション</p> | <p>・博士論文等を執筆している若手研究者や大学院在籍中の学生会員が、原則として単著で申し込んだ発表から構成されます。 ・ARSCの将来を担う若手研究者による積極的な報告を期待しています。</p> |
| <p>特定 セッション</p> | <p>・特定の論題を重点的に議論するためのセッションです。論点や方法論, 対象が共通する論文数編から構成されます(これまでに「新しい産官学連携のあり方ー筑波大学での革新的取り組みー」, 「沖縄県の経済振興を考える」, 「少子高齢社会の社会保障・教育・環境」 「交通混雑緩和と料金政策」, 「知識の創造・伝搬と集積の経済」, 「人口経済学的アプローチ」などの特定セッションが組まれました)。 ・このセッションの企画を募集しております。オーガナイザーを務めていただける方々からの積極的な応募をお願いいたします。</p> |
| <p>シンクタンク ・セッション</p> | <p>・ARSCは、会員による研究成果を実務へ活用するとともに、実務の中で発見された様々な問題を新たな研究課題として会員に紹介するという双方向の展開が重要であるという共通認識に立っています。 ・このセッションは、会員の中で特に計画, 政策立案, それに関連する調査等の実務に携わっている方々からの報告や問題提起を基に構成されます。 ・賛助会員の方々をはじめ、実務関係者の方々からの<u>企画提案をお待ちしております</u>。</p> |

(4) 今後の予定

①大会プログラム

- ・10月21日を目途に確定し、大会ホームページとニュースレターを通じてお知らせいたします。

②発表原稿

- ・**最終の発表原稿を 2017 年 11 月 10 日（金）までに座長，討論者，大会事務局の3か所にそれぞれ個別にお送り下さい。**

- * E-mailに添付して送られる場合は、必ずPDF形式にしてください。
- * 大会事務局宛てのメールの件名は「arsc論文(名前)」として下さい。
- * 論文のファイル名は半角アルファベットで「paper(name)」として下さい。

(例 paper(ichiro suzuki)など)

- * 座長，討論者の連絡先が分からないときは、大会事務局にお問い合わせ下さい。
- ・大会事務局に論文をPDFで送付していただければ、大会HPに報告論文をアップロードします。(アップロードの期間は本年中とします。) アップロードを希望しない場合は、メールにその旨を明記して下さい。
- ・発表会場には、論文またはそれに準ずるもののコピーを30部程度用意して下さい。
- ・発表会場にはVGA接続のプロジェクターのみ準備する予定です。ノートPCなどをお持ち下さい。

(5) 2017年大会実行組織 (敬称略)

| | |
|----------|--|
| 大会実行委員会 | 委員長 田淵 隆俊 (東京大学) 委員 小川 光 (東京大学) , 佐藤 泰裕 (東京大学) 高橋 孝明 (東京大学) , 中川 万理子 (東京大学) |
| プログラム委員会 | 委員長 曾 道智 (東北大学) 委員 伊藤 亮 (東北大学) , 小川 光 (東京大学) 河野 達仁 (東北大学) , 直井 道生 (慶応大学) 藤嶋 翔太 (東京理科大学) |

大会事務局・お問合せ

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

東京大学経済学研究科 田淵研究室

電話：03-5841-5603

E-mail：ttabuchi@e.u-tokyo.ac.jp

5. 第7回アジア地域科学セミナーのご案内

ARSC事務局

アジア地域科学セミナーは、アジア諸国における地域科学の研究発展と交流を促進するために、応用地域学会（ARSC）、台湾地域学会（CRSA）、中国地域学会（RSAC）、韓国地域学会（KRSA）が共催して行い、第2回より、各国持ち回り開催となっております。（第2回は日本（ARSC）、第3回は台湾（CRSA）、第4回は韓国（KRSA）、第5回は中国（RSAC）、第6回は日本（ARSC）が主催しました。）

第7回アジア地域科学セミナーは、National Taiwan UniversityとChinese Regional Science Association Taiwanの主催により、2017年9月8日～10日、National Taiwan Universityで開催されます。参加申し込みは、6月6日時点で、日本（ARSC）からは、26本の論文発表と30名の参加が予定されています。

* 日程

2017年9月8日（金）～10日（日）

9/8（金）：Opening Session（午前）、Parallel Sessions（午後）、レセプション

9/9（土）：Parallel Sessions（終日）

9/10（日）：Excursion（市外へのバスツアーを計画）

* 開催場所

National Taiwan University (Taipei City, Taiwan)

* セミナーホームページ

<http://7thasrs.weebly.com/>

* 登録料

一般：US\$200.00

学生：US\$100.00

* 現在の申込状況（2017年6月6日現在）

Total：参加者 93名，論文発表 86本

うちARSCからの参加者 30名，論文発表 26本

6. 2017年度坂下賞候補者の推薦について

坂下賞選考委員会委員長 多々納 裕一（京都大学）

応用地域学会では、日本における地域科学の研究を発展させ、当学会を地域科学研究の世界的拠点にする視点に立ち、若い研究者を奨励することを目的として、毎年1名の方に『坂下賞』を授与しております。

対象者は、応用地域学会の会員かつ2017年12月31日に満40歳以下の方で、地域科学の理論的研究、実証的研究及び政策的研究のいずれか（あるいは複数の領域）で大きな貢献をなし、現在もなお継続的に研究活動を行っていることが条件となります。

2011年度から一般会員からの推薦も含めて選考することとなりましたので、奮ってご推薦下さい。

2017年度坂下賞 <募集要領>

推薦資格：応用地域学会員であること

推薦者数：原則として被推薦者（候補者）1名につき、推薦者1名（自薦も可）

応募書類：推薦書（A4一枚：推薦書様式参照）および業績リスト（様式は任意）

締 切：2017年10月1日（土）17時

（必着：メールの場合は受け取りを確認すること）

宛 先：下記までPDFあるいはWORDのファイルをメールに添付して送付。あるいは郵送のこと。

Email： 安藤 朝夫 会長 宛 ando@se.is.tohoku.ac.jp

郵送の場合： 〒162-0805 東京都新宿区矢来町126

NITTOビル5F（株）メッツ研究所内 応用地域学会事務局 宛

なお、推薦された候補者は、坂下賞選考委員会で、委員会推薦の候補者と併せて審議され、受賞者が決定されます。受賞者は、応用地域学会総会（2017年11月25日、於東京大学）で、発表・表彰いたします。

2017年度坂下賞選考委員会

委員長 多々納 裕一（京都大学）

委 員 城所 幸弘（政策研究大学院大学）

村田 安寧（日本大学）

安藤 朝夫（ARSC会長）

大澤 義明（ARSC副会長）

7. 「応用地域学研究」への投稿論文の募集

「応用地域学研究」編集委員長 大澤 義明（筑波大学）

「応用地域学研究」編集委員会では論文投稿を随時受け付けています。投稿論文は編集委員会の指名する複数の査読者により査読が行われます。奮ってのご投稿をお待ちしております。特に、若い研究者によるご投稿、地域課題に関する問題解決型論文、地方創生、Society 5.0、震災復興など適時性に優れた論文のご投稿をお待ちしております。

1. 論文投稿希望の方は、論文はできるだけword形式のファイルを電子メールの添付ファイルでお送り下さい。宛先は、編集委員長です（e-mail; osawa@sk.tsukuba.ac.jp）。LaTeXで作成された原稿でpdfファイルでも結構ですが、印刷時の編集の都合で最終原稿はwordでお願いすることがあります。
2. 受付の確認を電子メールで送付いたしますので、投稿後一ヶ月を過ぎても連絡が無い場合は、下記までお問い合わせ下さい。
3. 掲載論文の著作権は学会に帰属します。また、応用地域学研究発行半年後に掲載論文を学会HPにて公開します。

応用地域学研究に関するお問合せ先

応用地域学研究編集委員長

大澤 義明（筑波大学システム情報系社会工学域）

TEL & FAX : 029(853)5224

E-Mail : osawa@sk.tsukuba.ac.jp

6. 2016年度決算(概要)について

会計担当運営幹事 河野 達仁（東北大学）

2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日)学会決算(概要)案を以下のとおりご報告いたします。2016年度は、神戸大会の参加費を1000円値上げしました。その結果、大会は概ね収入の範囲で運営され、学会からの大会補助は3万円弱でした。アジア地域科学セミナーは、東北大と観光協会から合計60万円の補助をいただき、学会からの負担なしで運営することができました。一方、前年度と比較し、会費収入のやや減少、応用地域学研究の掲載論文数増加によるコスト増、事務局移行による一時的な支出増等により、繰越金を約130万円減少させ、2016年度繰越金は260万円弱となりました。今後は、学会運営について、抜本的な対応が必要になってまいります。

本決算結果は、監査委員による監査後、本年度大会での総会にて会員の皆様への報告がなされ、審議される予定です。なお監査委員は、相浦洋志（南山大学）及び小川光（東京大学）の両先生にお願いすることになりました（前掲）。（詳細の報告は、監査終了後、総会承認後のニュースレターに掲載します。）

2016年度決算(案)概要 ()内は2015年度

(単位：万円)

| 収 入 | | 支 出 | |
|-----------------|-----------|-------------|-----------|
| 繰越金 | 388 (448) | RURDS購読 | 341 (340) |
| 会費 (国内, 国際, 賛助) | 480 (485) | 「応用地域学研究」刊行 | 126 (84) |
| その他 (雑誌販売等) | 2 (3) | 大会開催補助 | 3 (16) |
| | | 国際会費 | 20 (23) |
| | | 事務費, その他 | 121 (85) |
| 収入合計 | 870 (936) | 支出合計 | 611 (548) |
| (繰越金を除く収入計) | 482 (488) | 繰越金 | 259 (388) |

7. 2017年度第1回運営委員会報告(概要)

ARSC事務局

2017年度第1回運営委員会が6月10日(土)に行われました。議事録等の詳細が必要な方は事務局までお知らせ下さい。以下に、議事の要点をご紹介します。

日 時：平成27年6月10日(土) 13:30~15:30

場 所：大手町ビル6F(東京都千代田区大手町) 三菱地所673会議室

出 席：13名, 委任状11名

議事要旨

開会に先立ち、安藤会長より、会長就任のあいさつが述べられた。

1. 副会長選挙結果報告(前掲)

2. 運営幹事等役員の選任(2017年度選任)

* 2017年度に新規選任となる、監査委員、選挙管理委員、研究発表大会プログラム委員会(委員長・委員)、坂下賞選考委員会(委員長・委員)、応用地域学会論文賞選考委員会(委員長・委員)の各委員長・委員を選任した。

* (2017年度役員一覧は前掲)

3. 選挙内規の改正について

* I. 運営委員の定員数および選挙方法 第2条, 「運営委員の選挙は全会員による無記名3名連記の投票によりこれを行う。」とあるが, 「運営委員の選挙は全個人会員による無記名3名連記の投票によりこれを行う。」と改正することが承認された。

* また会則 第4条(権利・義務)について, 以下の改正が提案されたが, 会則の改定には総会決議が必要になるため, 会費改定等と合わせて諮ることとし, 今回は保留する。

会則 第4条(権利・義務)

1. 会員は本会の行う事業に参加し、本会の一般刊行物1部の配布を受けることができる。また個人会員は、本会の役員選挙における選挙権および会員投票による選挙権総会の議案に対する議決権行使することができる。

4. 2016年度決算と課題

* 事務局より2016年度決算概要、神戸大会収支決算、第6回アジア地域科学セミナー収支決算について報告された。(前掲)

* 繰越金の減少に対し、抜本的な対策が必要になる。

5. 2017年度坂下賞の選考について(前掲)

* 例年どおりに、受賞候補者の自薦他薦を含めた推薦を公募する(6月ニューズレター・ホームページで公募を開始)。

6. 2017年度応用地域学会論文賞の選考について(前掲)

* 今後は、授賞した論文が2名以上の共著論文の場合でも、あくまで論文に対する賞であるため、表

彰楯は1つのみ用意することとする。

7. 2017年度研究発表大会（東京大学）の開催について（前掲）

*大会実行委員長の田淵隆俊先生（東京大学）より、大会準備状況、実行委員会メンバーなどが報告された。

*参加費は昨年と同額にするが、非会員価格を定める。

- ・一般会員3000円、非会員 5000円、学生は会員・非会員に依らず1000円とする。
- ・賛助会員には、1団体5名分の学会参加証を事前に送付する。（後述）

8. 2017年度 第7回アジア地域科学セミナーの開催について（前掲）

*2017年9月8日（金）～10日（日）国立台湾大学で開催予定のアジア地域科学セミナーのARSCからの参加状況について報告された。

- ・6月6日時点で、参加者96名（うち日本30名）、論文報告86本（うち日本26本）

9. ジャーナルの編集状況及び今後の方針について

① 応用地域学研究

*編集委員長大澤義明先生より、査読状況並びに、No. 21の編集状況についての報告があった。No. 21については、2017年9月発刊を目標に、鋭意準備が進められている。

*編集委員長の交代が提案され、承認された。

- ・次期編集委員長の候補者として、堤盛人先生（筑波大学）が提案され、承認された。No. 21までは現委員長が対応し、No. 22から新委員長が担当する。

② RURDS

*編集委員長黒田達朗先生より、RURDSへの投稿状況、アクセス状況などについての報告があった。

10. 賛助会員のサービスについて

*安藤会長より、以下が提案され、承認された。

- ・学会参加証 (Voucher) を5枚、賛助会員に事前送付する。
- ・希望する賛助会員は、バナー広告枠を1つ無料で提供する。

11. バナー広告について

*安藤会長より、バナー広告について説明があり、詳細なルール及び料金制度は執行部で決定することになった。併せてバナー広告枠を、賛助会員へのサービスとして位置付けることになった。

12. 今後の経理の見通しについて

*会費未納者への督促を行う。

- ・会費滞納（一般3年、学生1年）で、ジャーナルの送付を停止する。
- ・所在不明者リストを学会メールリストで流し、会員情報の更新を図る。

*執行部で財政改善案をまとめて、次回運営委員会で提案する。

13. その他

*新規入会希望者の推薦者について

- ・入会申請の際、推薦者2名を必須項目にすることが提案され、承認された。

以上

9. 事務局だより



ARSC会員現勢

2017年6月30日現在の会員数(昨年度総会以降の入退会者を含む)は以下の通りです。

個人会員 492名(内、一般会員 424名, 学生会員 58名, 海外会員5名)
賛助会員 5団体(総口数7口)。

転居先不明者の情報提供にご協力ください

2017年6月10日に開催されたARSC運営委員会において、事務局より「転居先不明者の消息」を会員の皆さまにお尋ねしたいと提案があり、承認されました。会員の皆さまにおかれましては、ご協力をよろしくお願い申し上げます。準備が整い次第、お伺いする予定です。

事務局からのお願い

- ◆ 会員の皆様の登録情報は、メール連絡やジャーナル等の送付に重要な情報となっています。変更があった場合は、会員ページ (<https://service.kktcs.co.jp/smms2/loginmember/arsc>) にログインし、速やかに登録情報の変更をお願いいたします。
- ◆ 地域科学に関連する分野の研究に興味を持たれている個人または団体が周囲に居られましたら、是非入会をお勧め頂くようお願い致します。新規会員の入会申込はARSCのホームページ (<http://www.arsc.org/>) の「入会手続き」より行ってください。入会に関するお問い合わせは、ARSC事務局にメール (clerk@arsc.org) まで。
- ◆ 事務局やニュースレター等に対しまして、ご意見や新しい企画等ございましたら、是非、お知らせください。

編集 後記

日本列島の上空では梅雨前線が広がり、雨の多い季節となりました。この時期の雨量は穀物や野菜の成長を左右し、とても大切です。一方で、集中豪雨が大きな災害をもたらすこともありますので、どうぞご注意ください。

雨が続くのは憂鬱なものです。雨が降ると、体がだるく感じたり、やる気がでなかったりしますが、これには科学的な根拠があるそうで、低気圧が原因で自律神経に対して、副交感神経を優位にすることがわかっているそうです。こんなときは無理をせず、雨音を楽しみながら読書をしたり、アジサイの花を眺めたりして、ゆっくり過ごすのもよいかもかもしれません。雨の音を聞いているだけで脳波がα波になるそうです。α波が出ると記憶力や集中力がアップする効果がありますので、案外、勉強や研究もはかどるかもしれませんね。(ST)

ARSC NEWS No.94 (2017年7月発行)

発行元 応用地域学会事務局 (文部科学省学会コード=10023)

会長: 安藤 朝夫

ARSC NEWS 担当: 高塚 創 (渉外担当幹事) / 田宮 すみ恵 (事務局)

〒162-0805 東京都新宿区矢来町126 NITTOビル (株)メッツ研究所内

TEL: 03 (5227) 7804 / FAX: 03 (5227) 7807

Email: clerk@arsc.org / 学会HP: <http://www.arsc.org/jp/>

送付先:第 31 回研究発表大会実行委員会
E-mail: todaiarsc2017@gmail.com
郵送:〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院経済学研究科 田淵研究室

第 31 回応用地域学会(ARSC)
研究発表大会 参加申し込み用紙 ・ 総会 委任状

<研究発表大会>

日時: 2017 年11 月 25 日(土)-26 日(日)
場所: 東京大学本郷キャンパス経済学研究科

| | |
|--------------------------|----------------------------|
| 氏名: | 連絡先(E-mail): |
| 所属: | 会員の種別 (正会員 ・ 学生会員 ・ 非会員) |
| 研究発表大会に (参加する ・ 参加しない) | 総会に (出席する ・ 欠席する) |

参加費:正会員は 3,000 円、非会員は 5000 円、学生は会員・非会員ともに 1000 円です。

◎ 懇親会の参加について (懇親会費: 6,000 円【学生は 2,000 円】(予定))

11 月 25 日(土)夜の懇親会に(参加する ・ 参加しない)

◎ 第 31 回 ARSC 総会に欠席される方は、必ず委任状をご提出下さい。

<総会>

日時: 2017 年11 月 25 日(土)
場所: 東京大学本郷キャンパス経済学研究科

委 任 状

2017 年 11 月 25 日(土)の応用地域学会総会を欠席いたしますので、
全ての決議を()に委任いたします。

ご芳名

印

(会員番号:)

※ 捺印の代わりに会員番号を記すことでも可

(注 1)ファイルに記入後、メールに添付してお申し込みください。(郵送も可)

(注 2)参加費・懇親会費は学会当日、受付にてお支払いください。

◎ 連絡欄
